

今回は、介護・看護の気くばり、目くばり、心くばりの部分での大切な事を書いている詩をご紹介します。

【きいてください、看護婦さん】 R・ジョンストン

ひもじくても、わたしは、自分で食事ができません。

あなたは、手のとどかない床頭台の上に、わたしのお盆をおいたまま去りました。

そのうえ、看護のカンファレンスで、わたしの栄養不足を、議論したのです。

のどがからからで困っていました。

でも、あなたは忘れていました。

付き添いさんに頼んで、水差しをみたしておくことを。

あとで、あなたは記録をつけました。わたしが流動物を拒んでいます、と。

わたしは、さびしくて、こわいのです。

でも、あなたは、わたしをずっとひとりぼっちにして、去りました。

わたしが、とても協力的で、まったくなにも尋ねないものだから。

わたしは、お金に困っていました。

あなたの心のなかで、わたしは厄介ものになりました。

わたしは、一件の看護的問題 だったのです。

あなたが、議論したのは、わたしの病気の理論的根拠です。

そして、わたしをみようとさえなさらずに。

わたしは、死にそうだと思われていました。

わたしの耳が聞こえないと思って、あなたはしゃべりました。

今晚のデートの前に美容院の予約をしたので勤務のあいだに、死んで欲しくないと。

あなたは、教育があり、りっぱに話し、純白のぴんとした白衣をまとうて、ほんとうにきちんとしています。

わたしが話すと、聞いてくださるようですが、耳を傾けてはいないのです。

助けてください。

わたしにおきていることを、心配してください。

わたしは、疲れきって、さびしくて、ほんとうにこわいのです。

話しかけてください。

手をさしのべて、わたしの手をとってください。

わたしにおきていることを、

あなたにも、大事な問題にしてください。

どうか聞いてください。看護婦さん。

(『人間対人間の看護』で著名なジョイス・トラベルビー1971年2月号より)

- 1) 看護のカンファレンスで何を議論しましたか？ ()
- 2) 付き添いさんに何を頼み忘れましたか？ ()
- 3) 耳が聞こえないと思いどんな事を話しましたか？
()
- 4) 「きいてください、看護婦さん」の詩を読んだ感想を書いてください
()